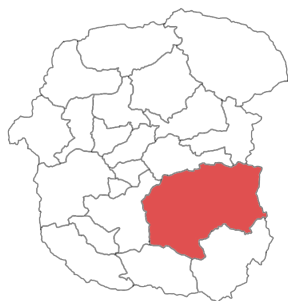




5 区 | 小 宮 行政区

地理



村のほぼ南東に位置しており、飯樋と、関沢や草野を結ぶ県道が川筋に沿って走っている。おおよそ狭い谷間に位置する行政区。山を切り拓いて農地を作ったことから、段差が多く狭い農地が随所にあり、小規模な農作業が中心だった。山の冷たい水を使うことから、米の出来はあまりよくなかったが、川と岩部ダムがあるため、水の量で苦労することはなかった。

文化・生活

行政区の集まりとして、総会（3月末）、年2回の用水路の草刈り、県道の草刈りを行なっている。必要に応じて役員会が開催される。事故前は川の土手や中の草刈りもボランティアで行っていた。最近草刈りには補助金が出るようになった。小宮行政区には部会のようなものは置かれていない。老人会があり、旅行などを行っている。

かつて冬には薪需要を賄うための林業か、あるいは出稼ぎをしていた。また、稲作やたばこ栽培が盛んでいろいろな作物を育てていた。子牛の繁殖農家がおり牧草地で放牧をする光景も見られたが、震災前からその数は減り続けていた。現在は、小宮牧野利用農業協同組合が管理していて、牧野には現在800本ほどの桜が植えられている。

宮内行政区の綿津見神社の支社が小宮にあり、綿津見神社の例大祭の時はお祭りが4-5



高橋正一 行政区長

姉3人に妹2人、当時としては一般的な大家族の長男で、相馬農業高校学校飯館校を卒業後、兼業農家でたばこの栽培と稲作を続けた。25歳からの名古屋での出稼ぎを経て、長い間斎藤運輸工業に務めた。仙台からフェリーに乗り、北海道まで野菜を運ぶこともあった。原発事故の復興事業にも携わった。

月の連休付近に2日間ほどにわたり盛大に行われた。夏には盆踊りも行われていた。新年会は、飲酒運転が厳しくなってからは行われなくなっていた。機械化前は、田んぼなどの共同作業、「結い」がある種行事のような役割を果たしていたという。飯樋小学校に統合される前は、小宮に小学校があり、現在のコミュニティセンターの位置にあった。グラウンドはそのまま残されている。もっとも、飯樋に近い山辺沢地区は統合前から飯樋小学校の学区だった。行政区には子ども育成会があって、夏休みすぐの日帰り旅行を行っていた。

事故前からの伝統芸能である田植え踊りを現在でも活発に行っており、民族芸能保存会として年に4回ほど、村外、さらには東京での演示を行ったこともある。

大規模に耕作を行っている担い手は2軒。そのほか、小規模に耕作をする高齢の住民、また新規に営農を試みる移住者も入っている。現在では高齢者が多く、仕事をしている人も通える範囲の事業所に勤め、出稼ぎはない。

小宮の山奥に住む大久保金一さんは、使われなくなった農地を「マキバノハナゾノ」として整備し、春には桜やスイセンが一面に広がり隠れた名所となっている。



▲ マキバノハナゾノの桜並木

▼ 水仙の咲き誇るマキバノハナゾノ



コラム

【マキバノハナゾノ】

マキバノハナゾノは、いくつも小さな峠を超えた先に現れる桃源郷である。ここに住む住民がもっぱら管理をしてきており、桜や水仙が深い山奥の小さな平地に見事に咲き誇る。

店 事業所

小宮簡易郵便局がある。事業所としては、林業の大谷林業、建設・農業を行う福相建設、福島石販の作業所、産業廃棄物の処理施設が位置している。

かつては郵便局のそばに2軒ほど、山辺沢にも1軒ほど商店があった。また飯樋町に買い物に行っていた頃もあった。

人 口

60人	1983年	702人
最新(2020年)	1998年	552人
	2011年	436人



▲ 野手神集落



▲ 野手神山を登山口から望む

▼ 小宮簡易郵便局の前から福島県道31号線の東(関沢)方向を望む





▼ 小宮簡易郵便局

▲▼ 小宮の牧草地



▼ 稲荷神社

